俳句の知識

1 俳句のリズム

有季定型…季語をよみ込んだ、十七音の詩型という俳句の原則。

〈定型〉

意味や調子の切れめ

上の句 五（上五）

中の句 七（中七）

下の句 五（下五）

上五で切れる 五／七五

中七で切れる 五七／五

中七の中間で切れる

ひと続きで切れない句

俳句の構成（切れ・段落）

「ぽぽ」という擬態語の効果的なくり返し。

上五で切れる

例 蝉鳴くや／日落ちてしばし燃ゆる雲 （石島雉子郎）

中七で切れる

例 起きざまに露ふるひけり／草の鹿 （佐藤紅緑）

中七の中間で切れる

例 突き放す水棹や／岩のすみれ草 （高浜年尾）

ひと続きで切れない句

例 たんぽぽのぽぽとわたげのたちにけり （加藤楸邨）

❶切れ字…句中で、内容や意味を途中で切る働きをする語。切ることで余情を感じさせ、句の主題を強調することができる。

●作者の強い感動を示し、「ああ、……」「おお、……」といった感じを生み出す。

2 俳句の表現技法

重な用言　終助詞…ぞ・かな・や　助動詞…けり・ず・ぬ・らむ　（感動）

❶**比喩**　ほかのものにたとえる表現技法。

例 銀行員ら朝より蛍光す烏賊のごとく （金子兜太）

↓蛍光灯の下で働く銀行員＝光に集まる烏賊のようだ

擬人法

例 雪だるま 星のおしゃべり ぺちゃくちゃと （松本たかし）

擬音語

例 雪国やはっはっはっはっ 時計生き （西山泊雲）

擬人法

例 鹿の足よろめき細し草紅葉 （竹下しづの女）

擬声語

❷**破調**…一句の調子が五・七・五の自然な流れになっていない句。定型を崩した「字余り」「字足らず」、意味や調子の切れめが五音・七音の途中にある「句またがり」（例：「中七の中間で切れる」）を指す。

❸**倒置法**

例 軒ふかし この風鈴を吊りしより （岡野知十）

❹**字余り**

例 こらへかねて崩るる夜の牡丹かな （森澄雄）

↓すぐ下へ続かず、一瞬の間ができる。

俳句 俳句の知識

夏井いつき

愛媛県生。中学校で国語を教え俳人に。様々なメディアに登場し、率直な句作指導で現在の俳句ブームの火付け役となった。

夏井先生の技！

「型」を使って下から作る俳句

基本の型　季語5音 ＋ 取りこわせば決まる型

下から作る

3 合う5音の季語を選ぶ

2 下の語を7音で描写

1 書いたい5音の言葉を決め、

蝉しぐれ　時の止まった　腕時計

3 季語（季題）

（分類したものを「歳時記」という）

短詩型としての表現の不足を補うため、季節感を表すために必ず季語をよみ込む形式となった。それによって、よむ人をその季節の中に引き込み、味わい深いものにすることができる。

●季語のきまり

①どの季に属するかは規定されている。

②一句に一つが原則。二つ以上の季重ねはさけるが、複数の時は主題のものが季語となる。

季語一覧

古典俳句の春は一～三月、近代俳句の春は二～四月、気象学上の春は三～五月。「一か月ずつずれている。

	旧	新	天文・地理	時候	人事	動物	植物
新年			初空・初日・初東風・初富士・若菜野・初凪	新年・旧年・今年・去年・元旦・松の内	門松・雑煮・数の子・独楽・羽子板・初詣・書初・百人一首・年賀状	嫁が君・初鶏・初雀	若菜
春	一～三月	二～四月	朧月・東風・風光る・炎・菜種梅雨・花曇・春雪・一番・水温む・春潮・雪解・雪崩・流氷・雪（雪残る）・薄氷・山笑う・逃水	立春・寒明・明日・暖・穀雨・余寒・仲春・啓蟄・暖か・風・閑・長日・永日・遅日・夏近し・八十八夜・蛙の目借時・彼岸	試験・入学・卒業・遠足・北窓開く・田楽・草餅・麦踏・茶摘・種時・挿木・鶯・雲雀・燕・帰る雁・雀・磯遊び・凧・朝寝・針供養・雛祭・御水取・西行忌・高山祭・しゃぼん玉	仔馬・鹿の角落つ・猫の恋・桜貝・蛤・浅蜊・蜆・蛇穴を出る・蝶・蜂・穴を出る	花・桜・梅・椿・つつじ・躑躅・のとう・沈丁花・馬酔木・蓬・パンジー・チューリップ・菜の花・木の芽・柳・蒲公英・土筆・大根の花・若草・黄水仙・藤
夏	四～六月	五～七月	南風・五月雨・朝凪・梅雨・蒸風・夕立・虹・雲の峰・日盛・雷・夕焼・早・雲海・泉・滝・清水・青田・雲海・雪渓	夏・風薫る・人道開く・昼寝・日焼け・キャンプ・サングラス・サーフィン・ヨットパーク・アイス（クリーム）・かき氷・そうめん・パイナップル	更衣・浴衣・端午・吹流し・田植・汗・日焼・麦藁帽・帰省・冷麦・蚊帳・団扇・風鈴・プール・花火・噴水・海水浴・登山・ナイター・甲子園・祭	鹿の子・雨蛙・蛇・亀・時鳥・仏法僧・鵜・鯖・鮎・金魚・目高・蟻・蜻蛉・蛍・毛虫・蝉・蜘蛛・蟻・蚊・甲虫・金亀子・夜光虫	牡丹・紫陽花・さくらんぼ・バナナ・百日紅・あやめ・百合・向日葵・卯の花・筍・瓜・麦・トマト・葉桜・若葉・新緑・万緑・木下闇・青葉・昼顔
秋	七～九月	八～十月	名月・星月夜・天の川・流星・野分・台風・稲光り・霧・露・いわし雲・富士の初雪・刈田・花野・花壇・初潮・落し水・不知火	残暑・秋めく・天高し・二百十日・夜長・冷やか・新涼・爽やか・夜寒・身に入む・仲秋・行秋・冬隣り	七夕・迎火・盆・中元・燕帰る・雁・落鮎・秋刀魚・虫・虫の音・松虫・蟋蟀・蜻蛉・蜘蛛・啄木鳥・鹿・馬肥ゆる・小鳥来る・稲刈・新米・灯籠・踊・豊年・墓参・紅葉狩・夜なべ・新酒・月見・運動会・文化祭・共同募金・障子貼る・冬支度	熊・冬眠・狐・狸・兎・鹿・鷹・寒雀・鴨・鶴・鯨・鱒・渡る・白鳥・千鳥・鶴・鮭・河豚・かき・氷魚・冬蜂・水鳥	桃・梨・林檎・葡萄・栗・どんぐり・銀杏・紅葉・竹の春・朝顔・コスモス・菊・南瓜・糸瓜・芋・稲・萩・芒・竜胆・菌・曼珠沙華・桐一葉・木の実
冬	一～三月	二～一月	風（木枯）・北風・空風・隙間風・時雨・霧氷・霜・雪・風花・霰・山眠る・枯野・氷・水涸れ・氷柱・狐火	小春・年の暮・年の内・行年・年越・除夜・寒の入・大寒・短日・冷たし・寒さ・底冷え・凍る・三寒四温・春近し・節分	煤払・歳暮・餅・炬燵・セーター・毛糸編む・マフラー・ブーツ・焚火・クリスマス・障子・ストーブ・風邪・咳・マスク・竹馬・なわとび・スケート・ラグビー・雪見		冬菊・寒椿・山茶花・帰り花・蜜柑・落葉・木の葉・枯葉・枯木・枯れる・水仙・白菜・人参・葱・大根・麦の芽・ポインセチア・冬木

羽子板

4 俳句鑑賞のてびき

一句が二つの世界からできていることが多い。

芋の露連山影を正しうす （飯田蛇笏）

「正しうす」の主語は、「芋の露」ではない。「芋の露」は、近くの里芋の葉の景。目をはるか遠くに移すと、アルプスの連山が姿を正すかのようにくっきり浮かびあがっている。

いわし雲大いなる瀬をさかのぼる （小林一茶）

全体で一つ。水面に映った雲が流れに逆らって上っていく。

二つのことを一つにする取り合わせ ▼P.207

第三十三回伊藤園お～いお茶新俳句大賞

①作品					
6	5	4	3	2	1
フリガナ	フリガナ	フリガナ	フリガナ	フリガナ	フリガナ

※この用紙では応募できません。
応募は伊藤園のHPから

入学前プレ授業確認テスト

名前（　　）

1 次の空欄に入る語を漢字で書きなさい。

A（　　）吹かばにほひおこせよ（　　）の花あるじなしとて春を忘るな

B（　　）寺や吹かぬ笛聞く木下闇

2 Aの和歌の作者名を漢字で書きなさい。（　　）

3 Bの俳句の作者は誰ですか？次から選びなさい（　　）

ア正岡子規（まさおかしき）　イ与謝蕪村（よさぶそん）　ウ小林一茶（こばやしいっさ）　エ松尾芭蕉（まつおばしょう）

4 次の俳句で用いられている表現技法を後の選択肢から選びなさい。

ア鹿の足よろめき細し草紅葉（　　）

イ銀行員ら朝より蛍光す烏賊（いか）のごとく（　　）

ウ山頂でがんばったねと手を振る木（　　）

選択肢（直喩・隠喩・擬人法・体言止め）

5 次の季語について、その季語が表す季節を答えなさい。

ア土筆（　　）

イ時雨（しぐれ）（　　）

ウ台風・野分（のわき）（　　）

エ麦秋（ばくしゅう）（　　）

オ霞（かすみ）（　　）

カ露（つゆ）（　　）

キ七夕（　　）